




平成29年度 現地検討会実施状況（木材の安定供給等）

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
バイオマス	木質バイオマスを活用した地域創生を考えるシンポジウム	6月29日	上川南部森林管理署 南富良野町	南富良野町（会議室）	国有林	89 名	一般の方を含めた南富良野町の方々には木質バイオマスを活用した地域創生に対し関心をより深めていただくとともに、町外から参加する森林・林業関係者の方にはそれぞれの地域創生の検討にあたり南富良野町を良き事例として活用してもらうため、木質バイオマスに詳しい有識者や行政関係者によるシンポジウムを開催	<p><基調講演> 講演：森林研究・整備機構森林総合研究所研究室長 「木質バイオマス活用による地域活性化について」 <パネルディスカッション> パネリスト：森林総合研究所、NPO、上川総合振興局、森林組合、森林管理局 <意見交換> 「今後も地域の見本として進めてほしい」「バイオマス利用に併せ地域材の利用として建築用材の利用を」「中山間地域の点と点のつながり合いにより一層の取組を進めていきたい」等の意見が出された。</p>	
					民有林	名			
					自治体	36 名			
					事業体	33 名			
					研究機関	15 名			
					その他	11 名			
					合計	184 名			
								パネルディスカッションの様子	
安定供給	第1回森づくり勉強会	7月26日	空知総合振興局森林室 空知地区市町村森林整備実行管理 推進チーム 空知森林管理署	芦別市（会議室） 芦別市（市有林） 芦別市（国有林）	国有林	4 名	管内の市町有林は主伐期を迎えているが、主伐事業を実施している市町は3市町と少ない これは調査設計のノウハウがないこと、スタッフ不足、再造林での経費負担が原因である については、再造林経費負担に係る理事者の理解を深めてもらうため、主伐事業の基本について先行事例を基に学び参加者で議論する勉強会を実施	<p>室内研修においては、主伐の販売方法、道有林や国有林の立木販売事例、近隣市町の主伐事例について森林室および空知署の担当者が説明を行った。 その後、芦別市有林および国有林の現地研修を実施した。 意見交換では「市有林材を公共施設に製材する手順」「主伐の設計」「国有林と民有林の事業単価の違い」等について質問等があった。 また、今後に向け、「ドローン活用の講習」「補助金制度の内容や手続き方法の研修」等の要望があり、今後、第2～3回の勉強会を開催する予定である。</p>	
					民有林	名			
					自治体	21 名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	25 名			
								国有林の主伐事例を視察	
バイオマス	木質バイオマスの集荷及び低コスト造林に係る現地検討会	8月3日	上川南部森林管理署	南富良野町（国有林）	国有林	65 名	木質バイオマスを安定的かつ効率的に供給するため、バイオマス対応型フォワーダを活用した林地未利用材の効率的な集荷方法等の検討を実施 再造林におけるコストの低減を図るため、低コスト造林の手法について検討を実施	<p>バイオマス対応型フォワーダでの集荷作業の実演においては「荷台の容積が通常の2倍以上であり林地未利用材の集荷に有効」「導入に当たっては現地条件に適合した作業方法の検討が必要」等の意見が上げられた。 今後は作業システムとして事業への組み入れについて検証をしていく予定。 低コスト造林において、「カラマツの天然更新（環状剥皮を実施）については着果の豊凶を考慮する必要がある」「作業の安全性と土壌の流出を考慮した植栽列の方向を検討する必要がある」等の意見が上げられ、引き続き経年調査を行い検証する。</p>	
					民有林	名			
					自治体	14 名			
					事業体	23 名			
					研究機関	11 名			
					その他	名			
					合計	113 名			
								バイオマス対応型フォワーダのデモの様子	

平成29年度 現地検討会実施状況（木材の安定供給等）

分野	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
木材利用	ストロームマツ人工林の販売等に関する現地検討会	9月6日	日高南部森林管理署	新ひだか町（町有林）	国有林	17名	町への技術的支援のため、町有林の林分内容等を調査し現地検討を実施	現地で町有林の蓄積、搬出路等の林分概要を調査したデータを基に材の流通・販売方法等について意見交換を行った。 意見交換では、町有林の森林整備を進めるためには材の販売が必要だが、町の販売制度では難しい面があるとの説明があった。 署からは材の流通を考慮して一般公売の実施を提案した。	
					民有林	名			
					自治体	4名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	21名								
現地で意見交換									
木材利用	地域材の利用推進に向けた現地視察研修会	9月6日	檜山森林管理署	木古内町（製材所） 知内町（バイオマス施設）	国有林	28名	生産者の立場から川下の利用状況や要望を知る事により、需要に合致した木材の安定供給体制の確立、情報を共有する体制を整備するため、製材工場とバイオマス施設の視察を実施	製材工場視察では、スギ材におけるアカネトラカミキリの被害状況、コスト削減の取組、求められる原木の条件や現在の市況・流通状況等活発な質疑が行われ、工場からは原木の安定供給と市況にあった採材等臨機応変な対応が求められた。 バイオマス工場視察では、施設の概要説明を受けた後、チップパー機による実演、バイオマスボイラー施設、木質バイオマスエネルギーにより熱源を確保し運営している町民プールの視察を行い、今後に向けた林地未利用材の確保等活発な議論が行われた。	
					民有林	名			
					自治体	15名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	43名								
知内町バイオマス施設での概要説明									
技術普及	後志地域現場見学研修会	9月25日	後志森林管理署 後志総合振興局森林室	寿都町（国有林）	国有林	9名	町林務担当者のスキルアップのため、現場見学研修会を実施	高性能林業機械による作業状況の見学及び立木評価方法の研修を実施した。 「実際に高性能林業機械を用いた作業を見せていただき、勉強になった」「林務経験のない者でも理解しやすい内容としてほしい」「森林整備を町村間で協力して行っていける関係を築いていきたい」などの意見が出された。 次年度以降も継続して開催していく予定。	
					民有林	名			
					自治体	12名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	21名								
高性能林業機械による作業を見学									
木材利用	木材の採材に関する意見交換会	10月27日	上川中部森林管理署	愛別町(国有林)	国有林	28名	木材の有利販売による山主の収益向上のため、国有林・道有林の販売担当者や素材生産の請負事業者など山林で丸太を生産・供給する側と、それを購入して加工販売する木材会社の関係者が、川上での作業と一緒に見学し有利採材等について意見交換を実施	冒頭に事業概要説明をしたあと、ハーベスタによるトドマツの伐倒と玉切りの様子を見学し、素材生産事業の基本となる「北海道森林管理局の造材・巻立・検知仕様」「日本農林規格」の概要と、当現場の採材仕様について署の担当者から説明。 初めての製材工場との意見交換により、トドマツの欠点に関する問題と有利採材等の共通認識され、今後の採材の課題ともなった。 また、広葉樹の意見交換会も実施してほしいと積極的な意見も出された。	
					民有林	名			
					自治体	4名			
					事業体	21名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	53名								
採材現場において意見交換。									